

研究戦略推進支援 ②研究力の調査・分析	初級
業績指標	
以下の条件の実績と経験を有する。	
①責任性 <input type="checkbox"/> 担当者として対応した。	
②複雑性 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績／経験を有する(結果への寄与度 10%以上)。 <input type="checkbox"/> 1. 研究者の研究活動(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況や特許)等を把握し, マッピング等の分かり易い手法により所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 2. 所属組織において, 研究力調査・分析機能充実のため, 研究者情報のデータベースの整備等, プロジェクトの策定基盤を強化・充実化した。 <input type="checkbox"/> 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 4. 当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握した。 <input type="checkbox"/> 5. 論文データの分析ツールを使い, 研究動向を分析した。 <input type="checkbox"/> 6. 研究力調査と各種の外部資金受け入れ状況を, 他大学との比較から, 所属する大学の優位性／弱点などを分析し, 関係者に伝えることができた。	
③重要性	
④学内外貢献 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。 <input type="checkbox"/> 1. 研究動向に関する調査・分析について, 関係者へ情報発信を行った。 <input type="checkbox"/> 2. 国内外研究機関や国内企業等の研究分野の把握を通じて, 当該分野におけるワークショップ企画を支援し, 新たな研究課題(テーマ)の確立へつながった。 <input type="checkbox"/> 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。	
⑤その他	
業務遂行能力指標	
以下の条件の能力を有する。	
①事業 <input type="checkbox"/> 自己の業務の大学における研究戦略の中での位置づけを理解している。	
②知識 <input type="checkbox"/> 1. 研究力調査に必要な所属大学の研究活動に関する知識(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況, 特許等)の初歩的な事項を理解している。 <input type="checkbox"/> 2. 担当業務に関連する所属大学の主要な方針(ポリシー), 学内手続きを理解している。	
③実務 <input type="checkbox"/> 1. 研究力調査に関する実務(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況等の把握, またそれら指標による組織力の把握のための方法)の初歩的な事項(例:実務全体の 20~30%程度)を理解している。 <input type="checkbox"/> 2. 前記 1. に関連する業務上の課題を発見し, 上司の指導の下でその課題を解決することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 研究特性の組織的把握ができる。また当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握している。	
④語学 <input type="checkbox"/> 研究力の国際動向について, 英語による情報(OECD, AAAS, 関連分野の外国語データベース等)を最低限の範囲で理解することができる。	

⑤対人

- 1. 関係者の説明(例:調査事項の趣旨, 目的, ポイント等)を正しく理解することができる。
- 2. 関係者の信頼を得て, 連携し, 協働できる。
- 3. 関係者にわかりやすく説明できる。
- 4. 関係者との間で円滑なコミュニケーションをとることができる。

⑥その他

- 複数の業務に適切な優先順位をつけ, 限られた時間を有効に活用し業務を遂行できる。

研究戦略推進支援 ②研究力の調査・分析	中級
業績指標	
以下の条件の実績と経験を有する。	
①責任性 <input type="checkbox"/> 主担当として対応した。	
②複雑性 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する(結果への寄与度 30%以上)。 <input type="checkbox"/> 1. 研究者の研究活動(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況や特許)等を把握し, マッピング等により所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 2. 所属組織において, 研究力調査・分析機能充実のため, 研究者情報のデータベースの整備等, プロジェクトの策定基盤を強化・充実化した。 <input type="checkbox"/> 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 4. 当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握した。 <input type="checkbox"/> 5. 論文データの分析ツールを使い, 研究動向を分析した。 <input type="checkbox"/> 6. 研究力調査と各種の外部資金受け入れ状況を比較し, また他大学との比較から, 所属する大学の優位性／弱点などを分析し, 関係者に伝えることができた。	
③重要性 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 <input type="checkbox"/> 1. 課題検討, 情報共有の場を通じて, 研究者間の連携が深化し, もしくは新たな連携が始まり, 新たな研究体制の構築につながった。 <input type="checkbox"/> 2. 研究力の相互理解と, 研究者と企業・官公庁・メディアとの連携が広がるようなワークショップや成果発信の場を設定した。	
④学内外貢献 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 <input type="checkbox"/> 1. 後輩(例:レベル初級)への研究動向の調査・分析に関する助言と環境づくりを行った。 <input type="checkbox"/> 2. 研究動向に関する調査・分析について, 関係者へ情報発信を行った。 <input type="checkbox"/> 3. 国内外研究機関や国内企業等の研究分野の把握を通じて, 当該分野におけるワークショップ企画を支援し, 新たな研究課題(テーマ)の確立へつながった。	
⑤その他	
業務遂行能力指標	
以下の条件の能力を有する。	
①事業 <input type="checkbox"/> 1. 自己の業務の所属大学における研究戦略の中での位置づけ(政策, 他大学の動向の把握を含む)を理解し, 他者(上司, 関係部署, 研究者等を含む)へ説明することができる。 <input type="checkbox"/> 2. 担当業務に関連する主要な学内の方針(ポリシー)・学内手続きを理解している。	
②知識 <input type="checkbox"/> 1. 研究力の調査に必要な所属大学の研究活動に関する知識(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況や特許)を保有し, 理解している。 <input type="checkbox"/> 2. 前記1. に関連する業務上の課題を発見し, 解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	

③実務

- 1. 研究力の調査に関する実務(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況等の把握, またそれら指標による組織力の把握のための方法)の専門的事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。
- 2. 前記1. に関連する業務上の課題を発見し, 解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。
- 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 研究特性の組織的把握ができる。また当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握している。

④語学

- 研究力の国際動向について, 英語による情報(OECD, AAAS, 関連分野の外国語データベース等)を概ね理解することができる。

⑤対人

- 1. 関係者(例:所属組織の上司やメンバー等関係者, FA, 企業等)から円滑に情報収集ができる。
- 2. 関係者の説明(例:調査事項の趣旨, 目的, ポイント等)を正しく理解することができる。
- 3. 関係者の信頼を得て, 連携し, 協働できる。
- 4. 関係者にわかりやすく説明できる。
- 5. 関係者(上司, 部下, 研究者)を納得させることができる。
- 6. 関係者との間で円滑なコミュニケーションをとることができる。

⑥その他

- 複数の業務に適切な優先順位をつけ, 限られた時間を有効に活用し業務を遂行できる。

研究戦略推進支援 ②研究力の調査・分析	上級
業績指標	
以下の条件の実績と経験を有する。	
①責任性 <input type="checkbox"/> 総括責任者として対応した。	
②複雑性 以下のいくつかのプロジェクト運営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する(結果への寄与度 50%以上)。 <input type="checkbox"/> 1. 研究者の研究活動(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況や特許)等を把握し, マッピング等により所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 2. 所属組織において, 研究力調査・分析機能充実のため, 研究者情報のデータベースの整備等, プロジェクトの策定基盤を強化・充実化した。 <input type="checkbox"/> 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 所属組織の研究特性を把握した。 <input type="checkbox"/> 4. 当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握した。 <input type="checkbox"/> 5. 論文データの分析ツールを使い, 研究動向を分析した。 <input type="checkbox"/> 6. 研究力調査と各種の外部資金受け入れ状況を比較し, また他大学との比較から, 所属する大学の優位性／弱点などを分析し, 関係者に伝えることができた。 <input type="checkbox"/> 7. 研究力の多角的な調査・分析結果を, プロジェクトの主担当者(研究者)へ伝えた。	
③重要性 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 <input type="checkbox"/> 1. 課題検討, 情報共有の場を通じて, 研究者間の連携が深化し, もしくは新たな連携が始まり, 新たな研究体制の構築につながった。 <input type="checkbox"/> 2. 研究力の相互理解と, 研究者と企業・官公庁・メディアとの連携が広がるようなワークショップや成果発信の場を設定した。 <input type="checkbox"/> 3. 学内の研究特性の把握により, 主たる研究者へのコンタクトを通じて, 新たな研究体制の構築につながった。 <input type="checkbox"/> 4. 研究力の多角的な調査・分析結果を, プロジェクトの主たる責任者へ伝えることで, 研究プロジェクトの策定基盤の強化・充実につながった。 <input type="checkbox"/> 5. 学内の研究特性の把握に基づく, 研究体制の構築・改編により, 学内外の客観的評価が向上した。	
④学内外貢献 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 <input type="checkbox"/> 1. 後輩(例:レベル初級)への研究動向の調査・分析に関する助言と環境づくりを行った。 <input type="checkbox"/> 2. 研究動向に関する調査・分析について, 関係者へ情報発信を行った。 <input type="checkbox"/> 3. 国内外研究機関や国内企業等の研究分野の把握を通じて, 当該分野におけるワークショップ企画を支援し, 新たな研究課題(テーマ)の確立へつながった。 <input type="checkbox"/> 4. 研究の展開に当たり, 研究者とは異なる観点からのコメントを求められるようになった。 <input type="checkbox"/> 5. 国内外の研究力の調査・分析を通じて, 研究の展開の方法を構築した。	
⑤その他	
業務遂行能力指標	
以下の条件の能力を有する。	
①事業 <input type="checkbox"/> 1. 自己の所掌業務の所属大学における研究戦略の中での位置づけ(政策, 他大学動向の把握を含む)を理解し, 他者(上司, 関係部署, 研究者等を含む)へ説明することができる。 <input type="checkbox"/> 2. 所掌業務に関連する主要な学内の方針(ポリシー)・学内手続きを理解している。 <input type="checkbox"/> 3. 所掌業務上の課題を発見し, あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。	

②知識

- 1. 研究力の調査に必要な所属大学の研究活動に関する知識(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況や特許)を保有し, 理解している。
- 2. 所属組織・分野に関連する大学, 産業界, 研究コミュニティ, 社会の動向を理解している。又は, 調査し, 把握することができる。

③実務

- 1. 研究力の調査に関する実務(研究分野, 論文, 外部資金獲得状況等の把握, またそれら指標による組織力の把握のための方法)の高度に専門的な事項(例:実務全体の 90%程度)を理解している。
- 2. 前記 1. に関連する業務上の課題を発見し, あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。
- 3. 他大学, 国内外研究機関との相対的位置づけを含め, 研究特性の組織的把握ができる。また当該分野の主たる研究者や大型資金の研究課題の展開を把握している。

④語学

- 研究力の国際動向について, 英語による情報(OECD, AAAS, 関連分野の外国語データベース等)を正しくかつ迅速に理解することができる。

⑤対人

- 1. 関係者(例:所属組織の上司やメンバー等関係者, FA, 企業等)から円滑に情報収集ができる。
- 2. 関係者の説明(例:調査事項の趣旨, 目的, ポイント等)を正しく理解することができる。
- 3. 関係者の信頼を得て, 連携し, 協働できる。
- 4. 関係者にわかりやすく説明できる。
- 5. 関係者(上司, 部下, 研究者)を納得させることができる。
- 6. 関係者との間で円滑なコミュニケーションをとることができる。

⑥その他

- 複数の業務に適切な優先順位をつけ, 限られた時間を有効に活用し業務を遂行できる。